

## 2. 赤羽根地域

### 1) 地域特性

赤羽根地域は市域中央部の表浜側に位置し、人口は市全体の1割程度を占めています。

本地域は、市街地及び集落のほとんどが国道42号沿いに位置しています。また、サーファーが多く集まる太平洋ロングビーチ、道の駅あかばねロコステーションや弥八島など、多くの観光・交流資源が存在しています。

表 15 赤羽根地域の概況

		赤羽根地域	全市に対する割合 (全市平均)
地域面積(ha)		2,386	12.5%
市街化区域	面積(ha)	73	4.3%
	割合(%)	3.1%	-
人口(H22年:人)		5,798	9.0%
世帯数(H22年:世帯)		1,547	7.3%
世帯あたり人員(人/世帯)		3.75	<b>(3.03)</b>
老年人口(H22年:人)		1,547	10.9%
老年人口比率(%)		26.7%	<b>(22.2%)</b>
人口密度(人/ha)		2.43	<b>(3.35)</b>

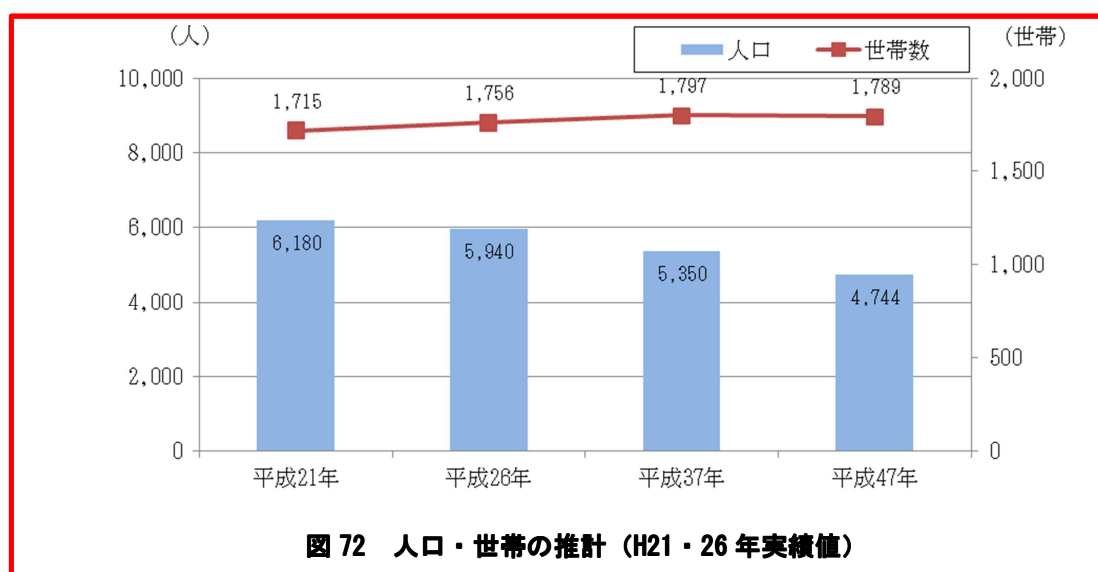
注) 老年人口は65歳以上

資料:H22年国勢調査等

### ①人口・世帯

#### 【地域の人口及び世帯数の推計】

赤羽根地域の将来人口は、平成26年の5,940人から平成47年には4,744人になると推計され、減少が見込まれます。また世帯数は平成26年が1,756世帯で、平成47年まではほぼ現状の水準を維持すると推計されます。



### 【地区別の将来人口増減】

地区別の平成 47 年の推計人口による将来の人口増減をみると、全ての地区で減少し、高松地区において減少率が大きくなっています。

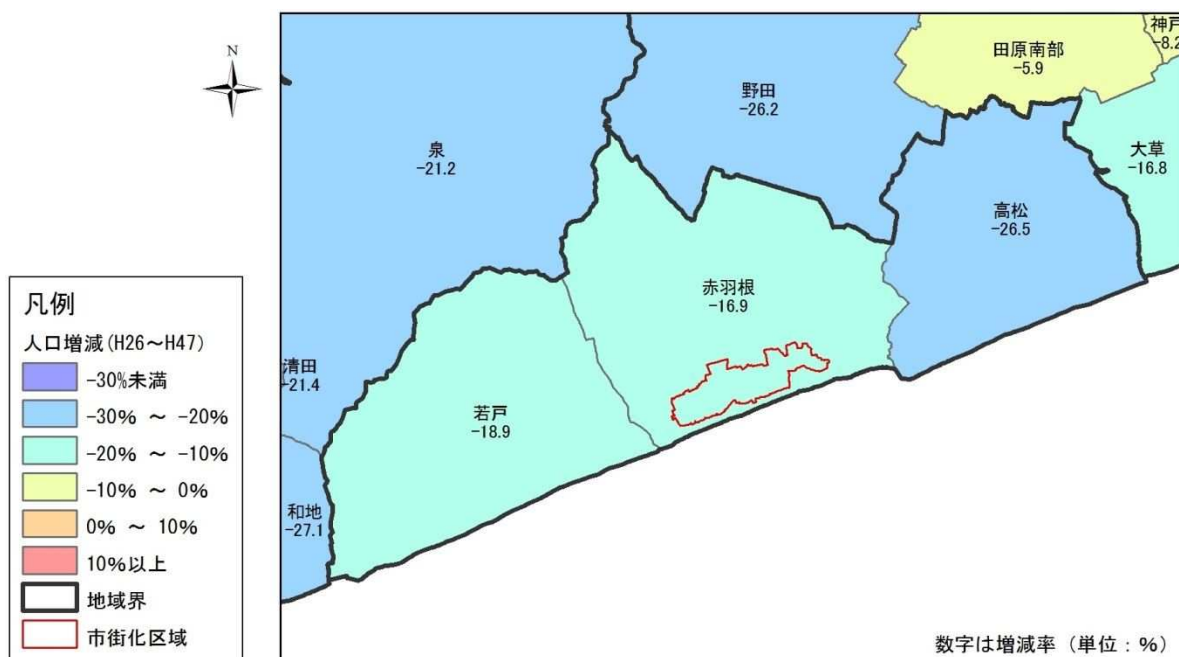


図 73 地区別将来人口増減比率 (H47 年/H26 年)

### 【地区別の将来世帯数増減】

地区別の平成 47 年の推計世帯数による将来の世帯数増減をみると、若戸地区、赤羽根地区は増加していますが、高松地区は減少しています。

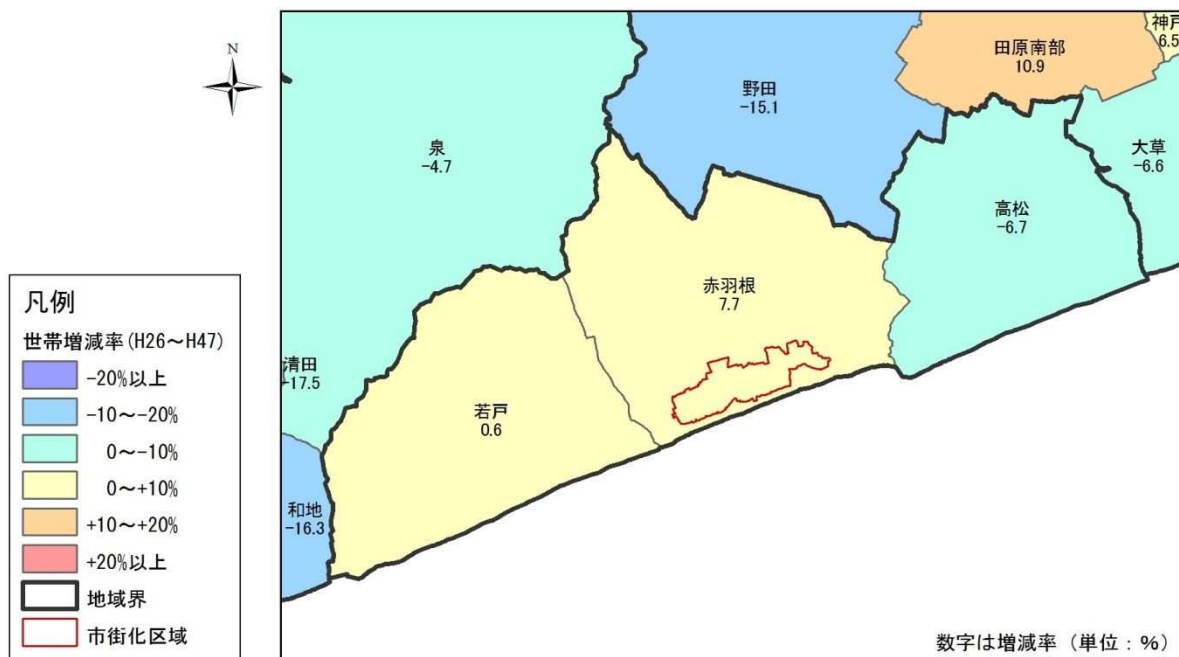
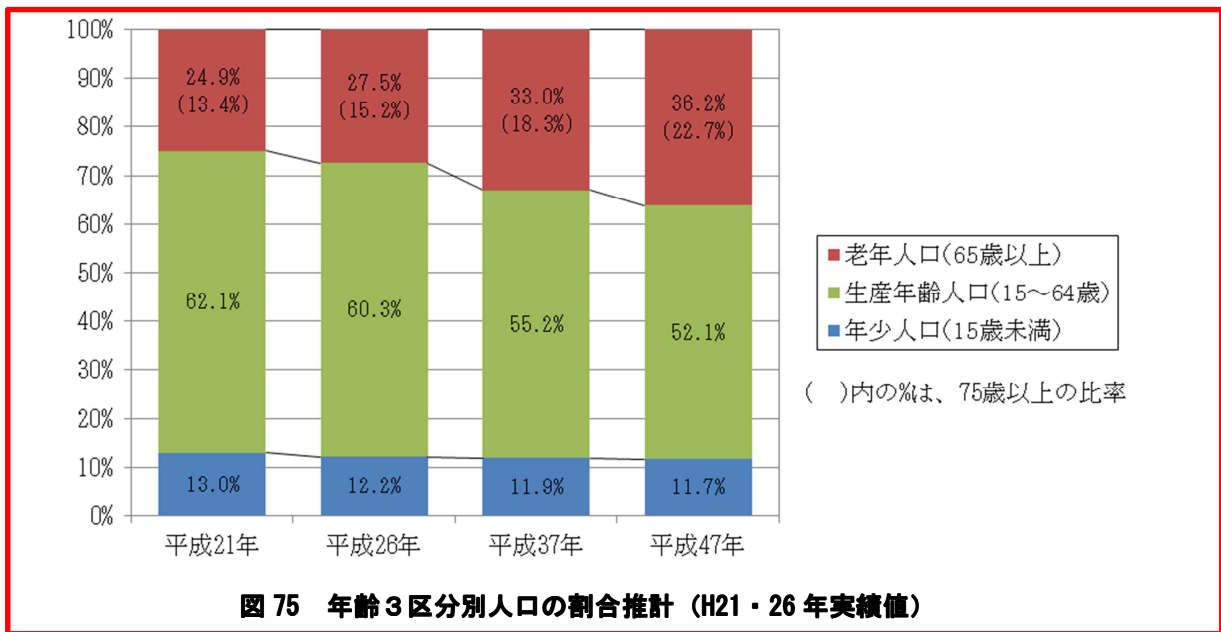


図 74 地区別将来世帯増減 (H47 年/H26 年)

【地域の年齢3区分別人口の推計】

赤羽根地域の年齢3区分別人口をみると、平成26年の老年人口の割合は27.5%となっていますが、計画年次である平成47年には、老年人口の割合は36.2%になると推計されます。



【地区別の将来65歳以上人口比率】

地区別の平成47年の推計人口による65歳以上の人口比率をみると、赤羽根地区が他地区より低く34.3%となっています。他の地区は35%以上40%未満になっています。

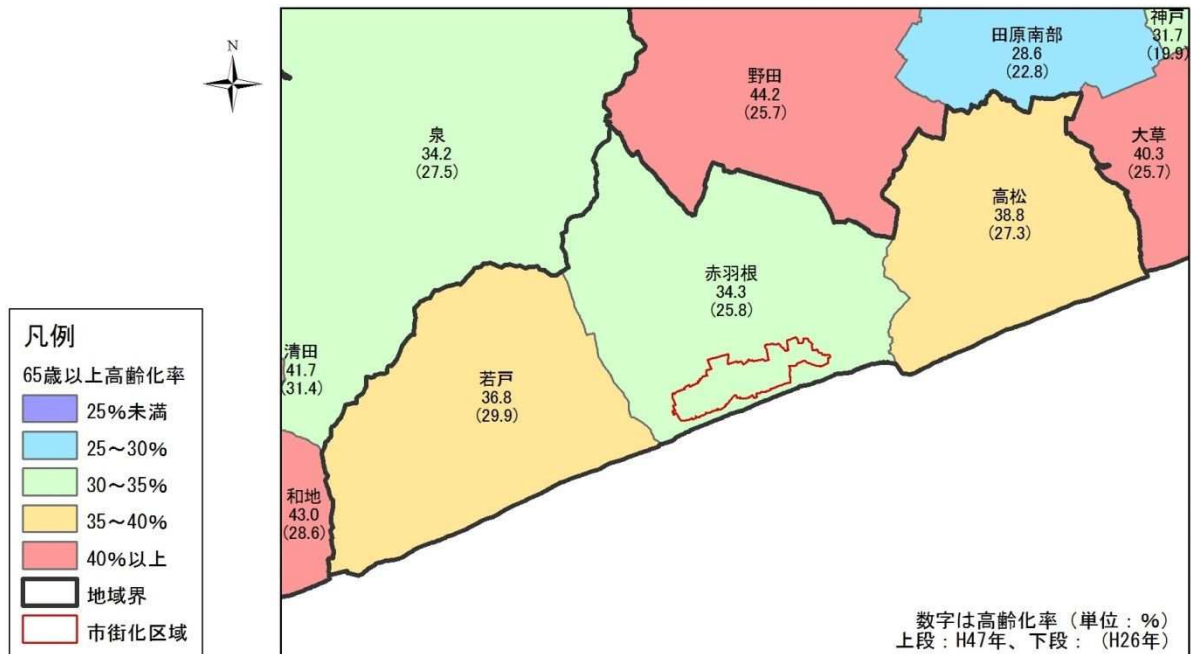


図 76 地区別将来65歳以上人口比率 (H47)

## ②土地利用・建物利用

### 【地域全体の土地利用現況】

市街化区域の土地利用の現況は、都市的土地利用が 80.1%を占めています。その中で最も多いのは住宅用地で 46.3%を占めています。

市街化調整区域の土地利用の現況は、自然的土地利用が 86.0%を占めています。その中で多いのは畑で 36.2%、次いで多いのは山林の 31.9%となっています。都市的土地利用では道路用地が最も多く 6.7%、次いで多いのは住宅用地で 3.3%です。

**表 16 土地利用区分別面積**

		市街化区域		市街化調整区域	
		面積(ha)	比率(%)	面積(ha)	比率(%)
自然的 土地利用	田	0.00	0.0 (0.1)	179.02	7.8 (7.1)
	畑	9.42	12.9 (2.6)	825.06	36.2 (34.0)
	山林	2.67	3.7 (2.7)	727.19	31.9 (31.7)
	水面	0.19	0.3 (0.6)	38.20	1.7 (1.9)
	その他の自然地	2.25	3.1 (4.0)	192.69	8.4 (8.8)
	小計	14.53	19.9 (10.0)	1,962.17	86.0 (83.6)
都市的 土地利用	住宅用地	33.78	46.3 (14.7)	74.38	3.3 (4.6)
	商業用地	2.37	3.2 (2.4)	5.15	0.2 (0.6)
	工業用地	2.54	3.5 (38.2)	19.35	0.8 (1.1)
	公的・公益用地	8.52	11.7 (3.9)	31.60	1.4 (1.9)
	道路用地	9.41	12.9 (9.0)	153.09	6.7 (6.2)
	交通施設用地	0.00	0.0 (0.2)	1.02	0.0 (0.0)
	公共空地	0.31	0.4 (1.3)	11.58	0.5 (0.6)
	その他の空地	0.16	0.2 (6.2)	2.56	0.1 (0.6)
	低・未利用地	1.38	1.9 (14.1)	20.11	0.9 (0.9)
小計	58.47	80.1 (90.0)	318.83	14.0 (16.4)	
総計		73.00	100.0 (100.0)	2,281.00	100.0 (100.0)

注)比率の( )内は全市平均値

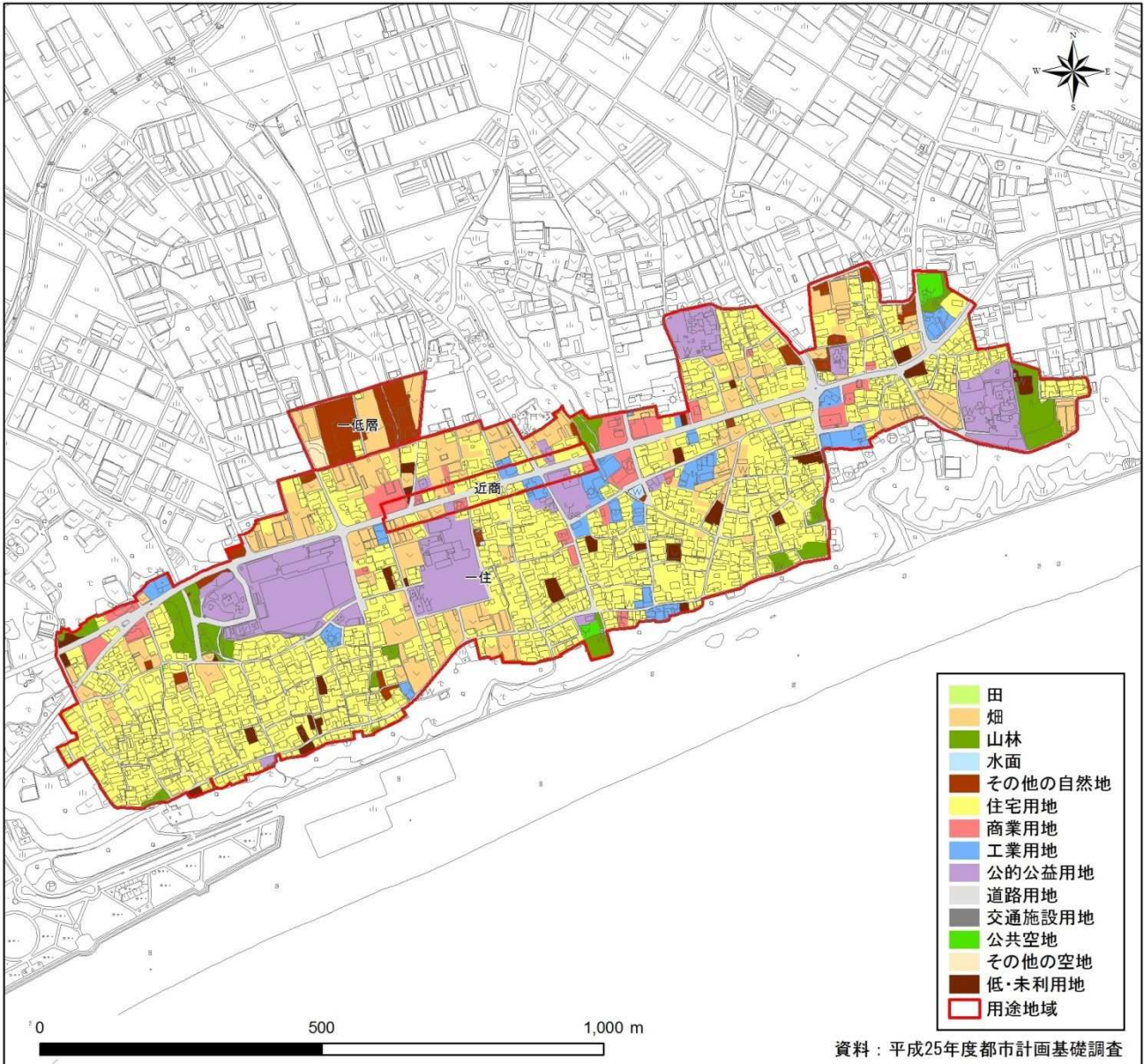
資料:平成25年度都市計画基礎調査



### 【市街地の土地利用現況】

赤羽根市街地の土地利用は、住宅用地が多くを占めています。商業用地は国道42号沿道に点在し、近隣商業地域の範囲が狭いこともあり、集中した立地にはなっていません。

畑、山林等の低・未利用地は市街地面積の18.7%となっており、中でも畑が12.9%を占めています。



※調査時点は平成23年末現在

図77 赤羽根市街地の土地利用現況図

表17 市街化区域内低・未利用地面積

	田	畑	山林	その他の空地	低・未利用地	合計	市街化区域
赤羽根市街地	0.00ha	9.42ha	2.67ha	0.16ha	1.38ha	13.63ha	73.00ha
	0.0%	12.9%	3.7%	0.2%	1.9%	18.7%	100.0%

注) %は各市街化区域面積に対する比率

資料：平成25年度都市計画基礎調査

### 【旧耐震建物分布状況】

耐震性が低いと思われる旧耐震基準で建てられた建築物（老朽建物）の割合は、全ての地区で50%以上60%未満となっています。

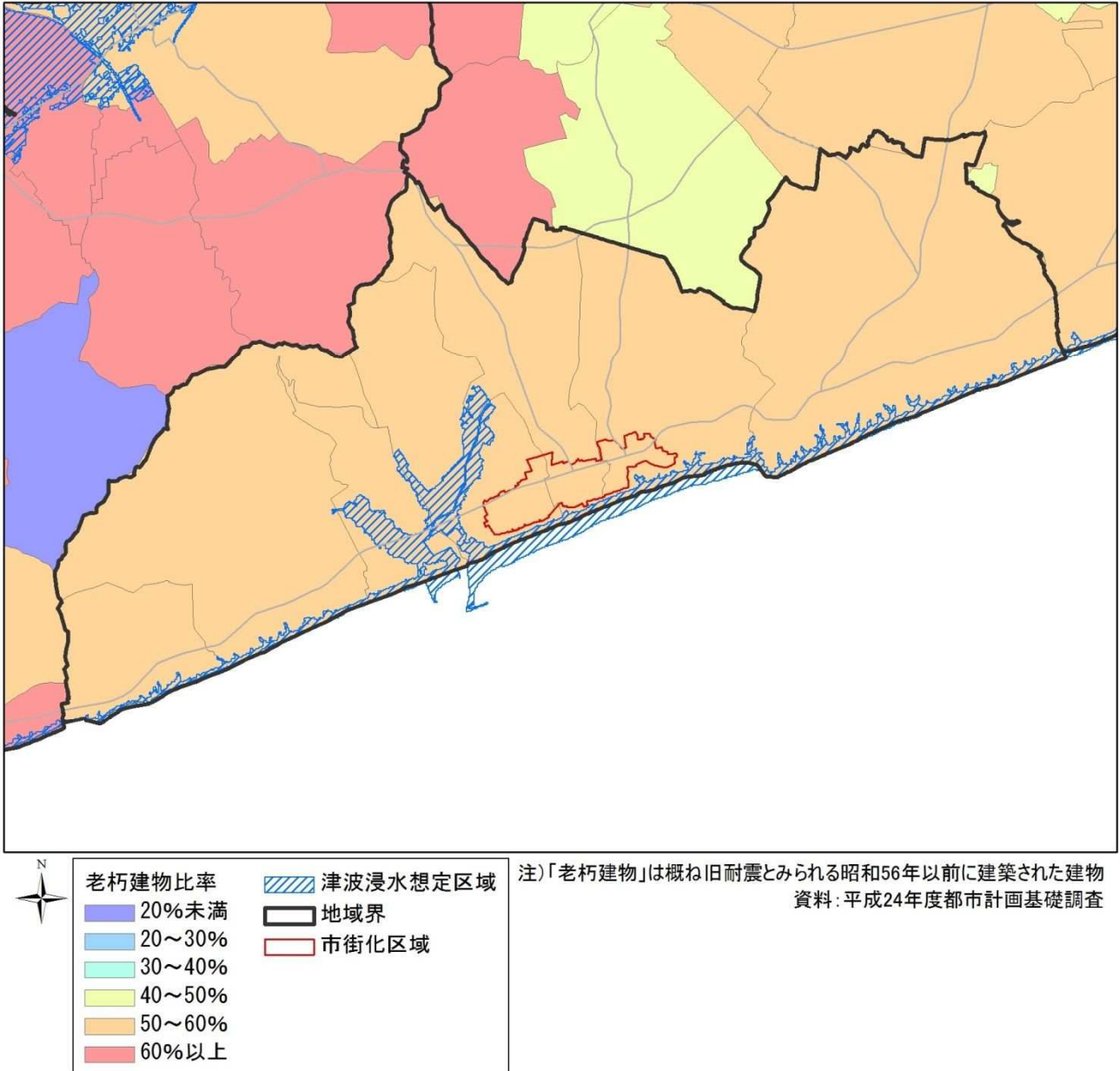


図 78 老朽建物棟数比率及び津波浸水想定区域

## 【空き家の状況】

空き家の分布状況を見ると、集落地では高松地区、越戸地区で空き家率がやや高くなっています。

高松地区は、今後20年間で世帯数の減少が想定されることから、空き家が増加するおそれがあります。

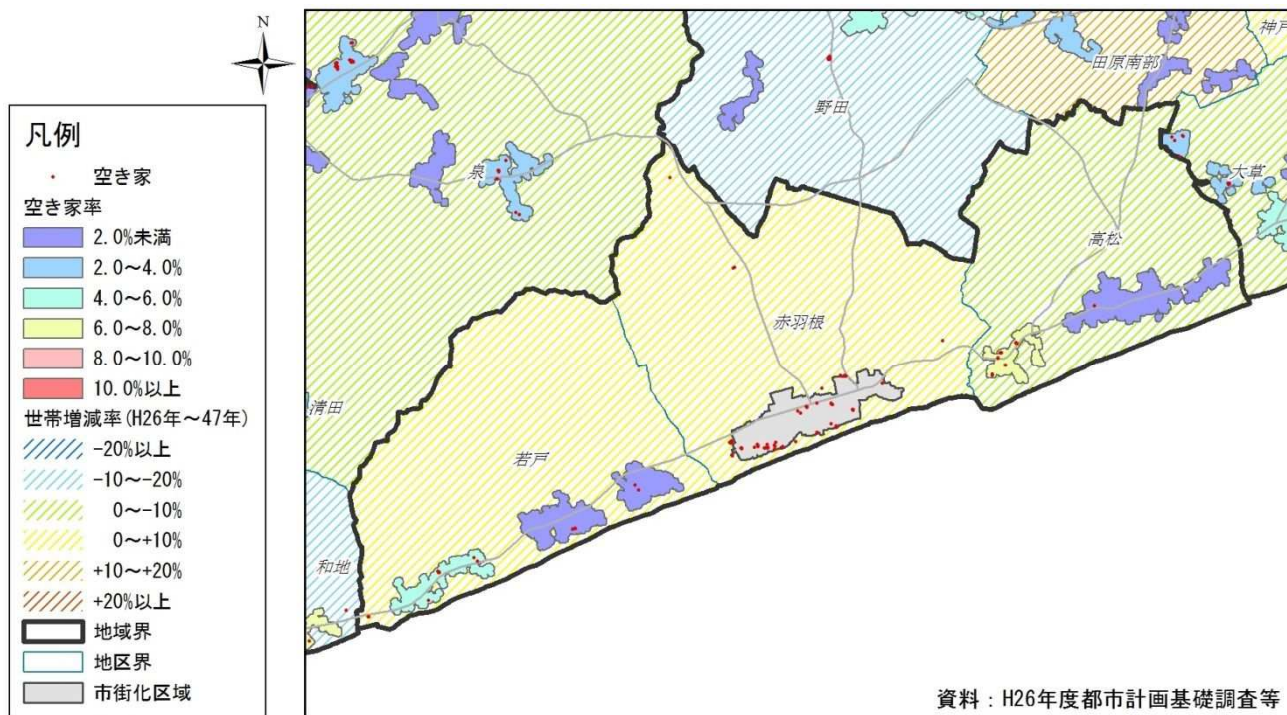


図 79 空き家状況及び将来世帯増減図



### ③交通

#### 【道路】

国道42号が市街地と集落をつなぐように東西に通り、南北に主要地方道と一般県道が通っています。

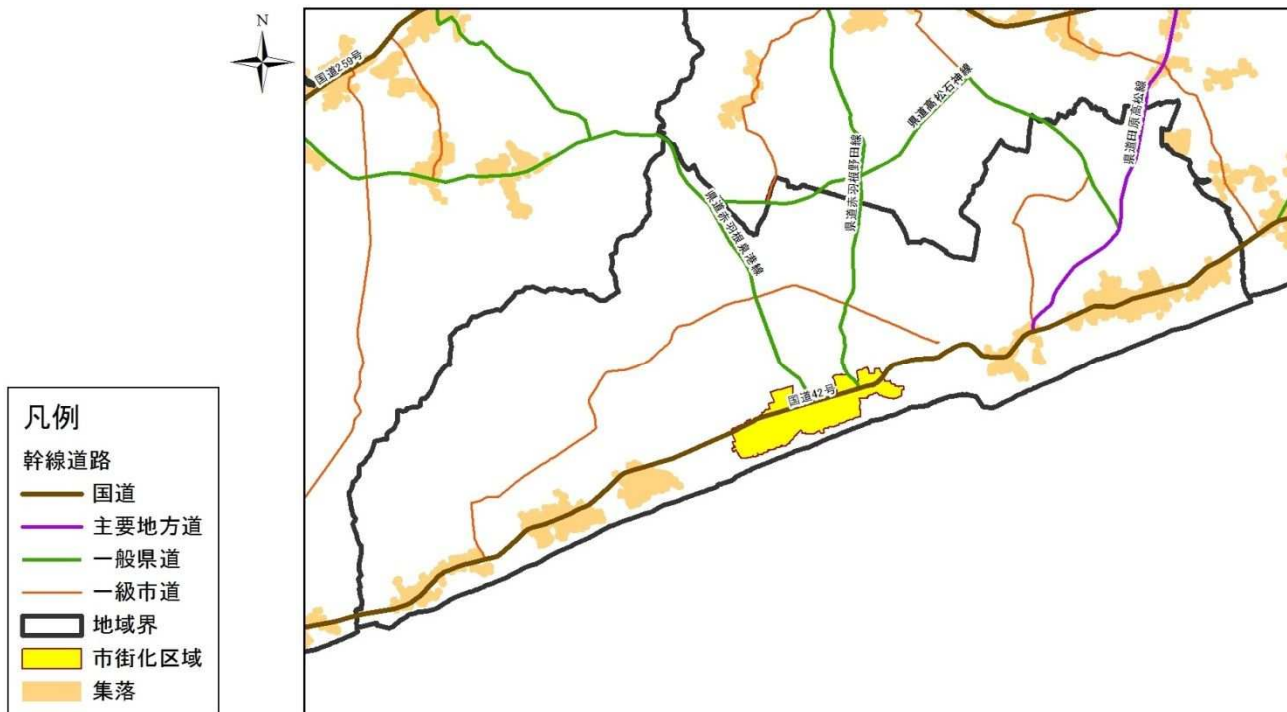


図 80 幹線道路網図 (国道・県道・1級市道)

#### 【公共交通】

豊鉄バス(株)が伊良湖支線を運行しています。

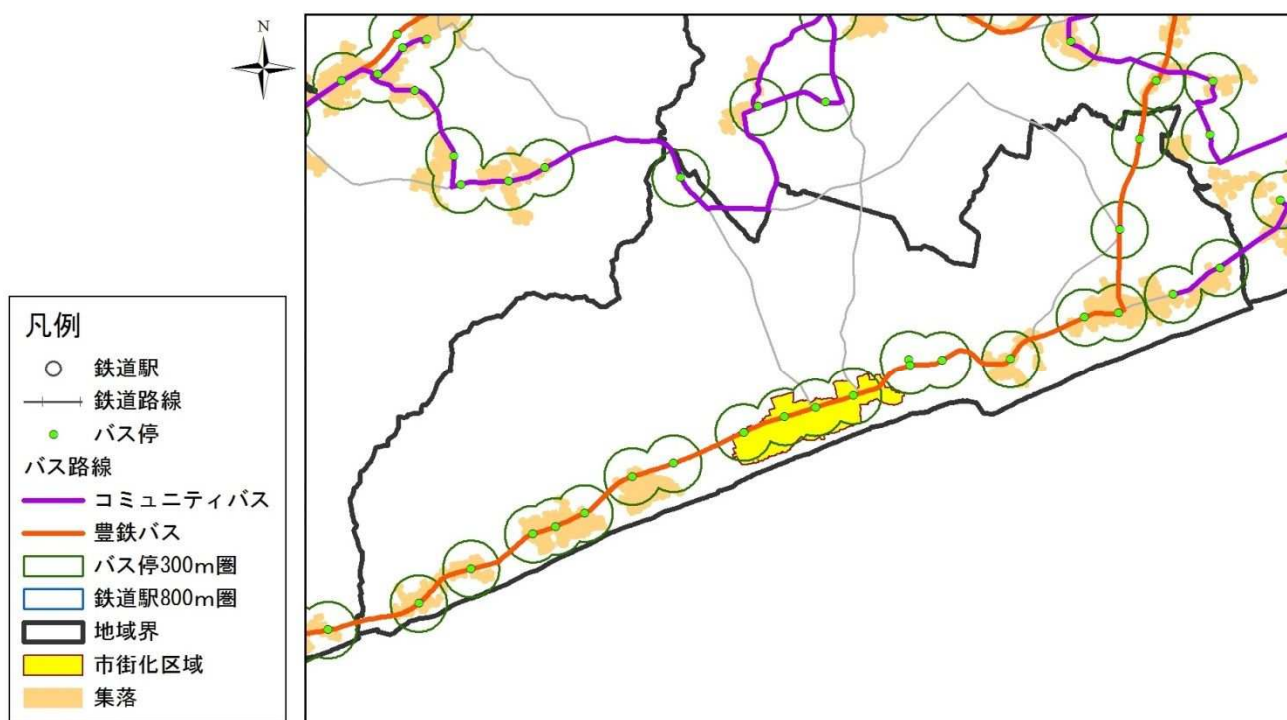


図 81 公共交通サービス圏図



## 【パーソントリップ】

赤羽根地域の人の流れをパーソントリップ調査でみると、出勤の動きは、内々が3割程度にとどまり、田原中心部や田原臨海部などへの出勤が多くなっています。買い物の動きは、内々で4割程度まかなわれ、4割程度が田原中心部に依存しています。また、通院の動きも、大半が田原中心部に依存しています。いずれの動きも、渥美地域への人の移動はほとんどみられません。

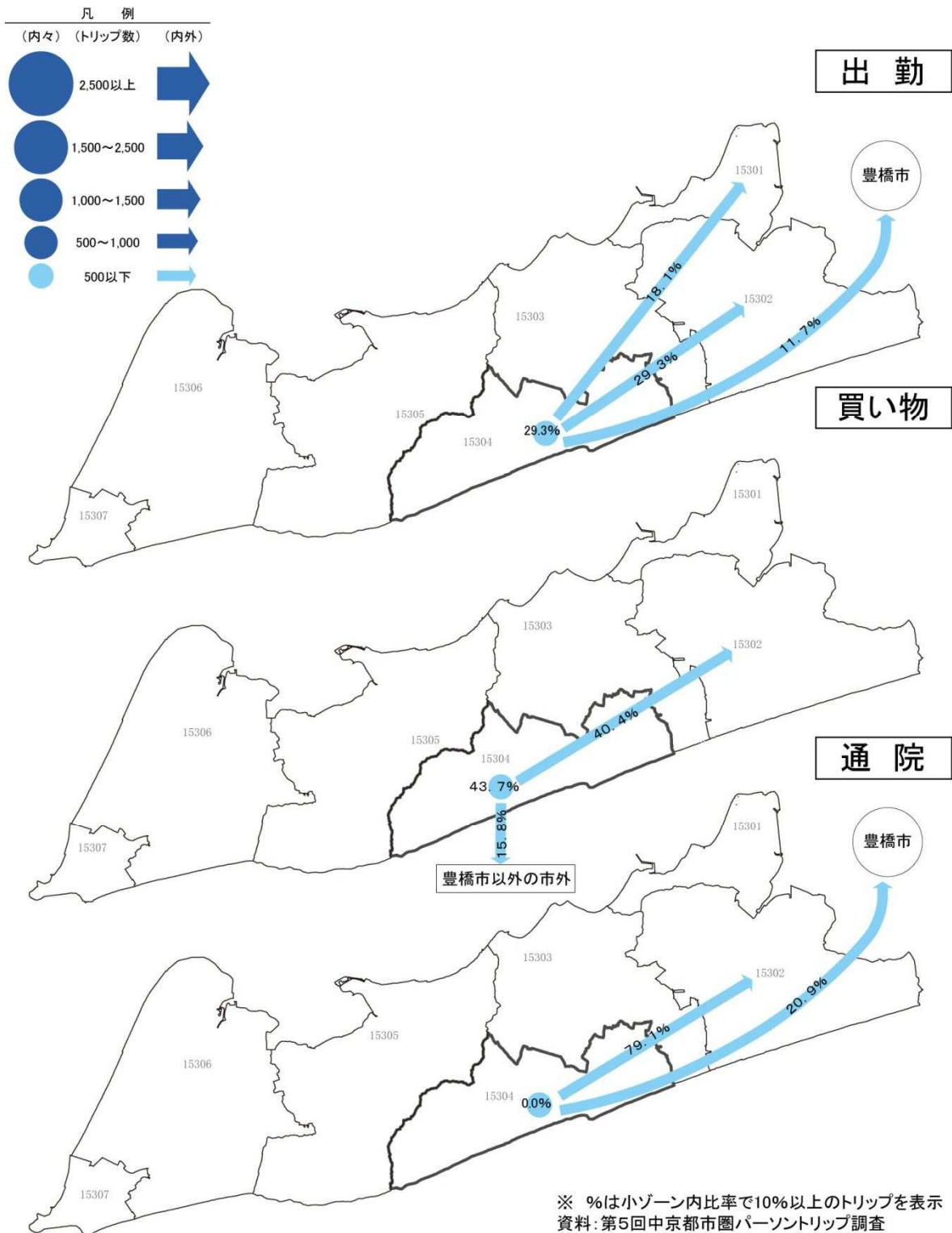
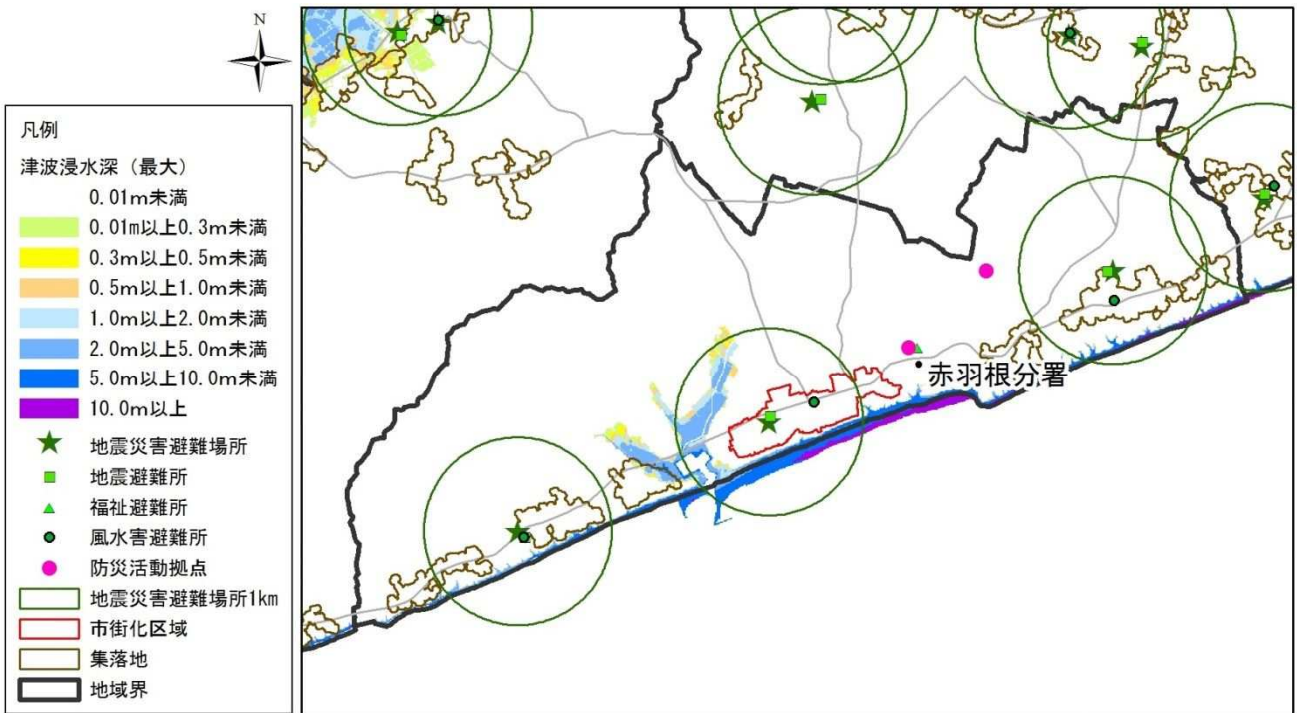


図 82 パーソントリップ図

#### ④津波浸水予測

南海トラフ地震の理論上最大想定モデルでは、津波による浸水被害が赤羽根漁港付近及び池尻町の一部で想定されています。

当地域では、サーファーや釣り客等レジャーを楽しむ人が多く訪れる地域であることから、津波が発生すると被害が拡大するおそれがあります。



資料：平成26年度都市計画基礎調査

図 83 津波浸水予測及び避難場所等分布図

### ⑤生活利便施設

赤羽根市街地には、ある程度の生活利便施設等が立地しています。

赤羽根市民センターなどの公共施設は、市街地東側の市街化調整区域に立地しています。

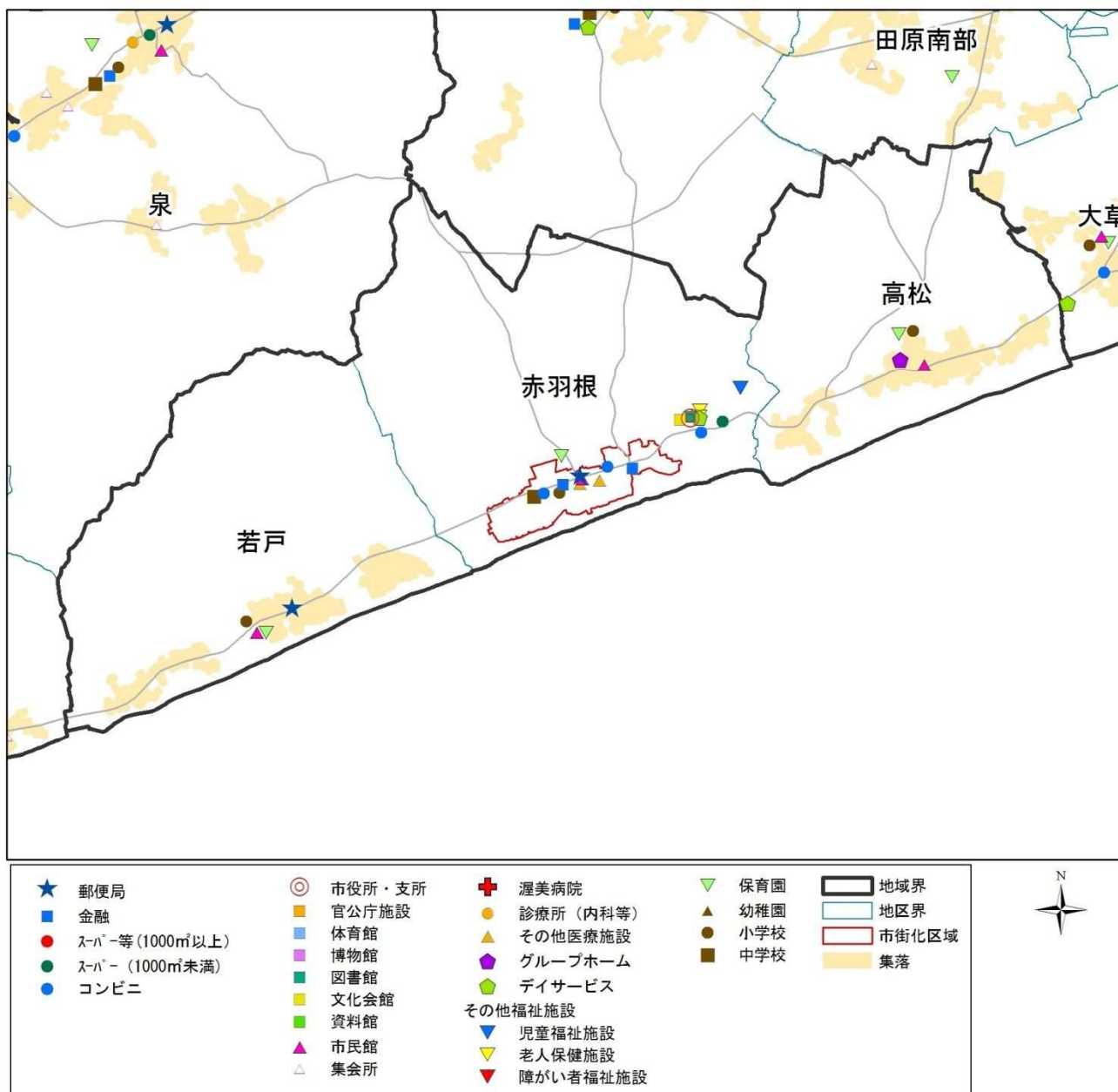


図 84 生活利便施設等の分布状況図

## ⑥観光・交流

赤羽根地域には、太平洋ロングビーチや道の駅あかばねロコステーションなど、本市を代表する観光・交流資源があります。

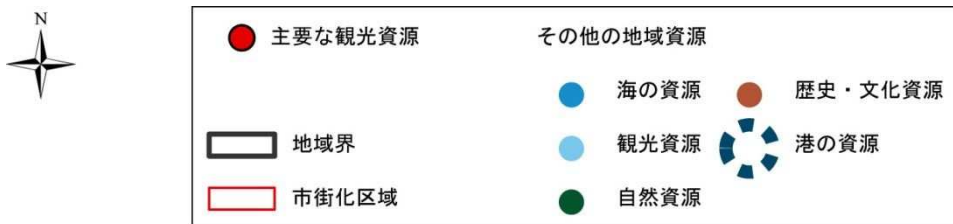
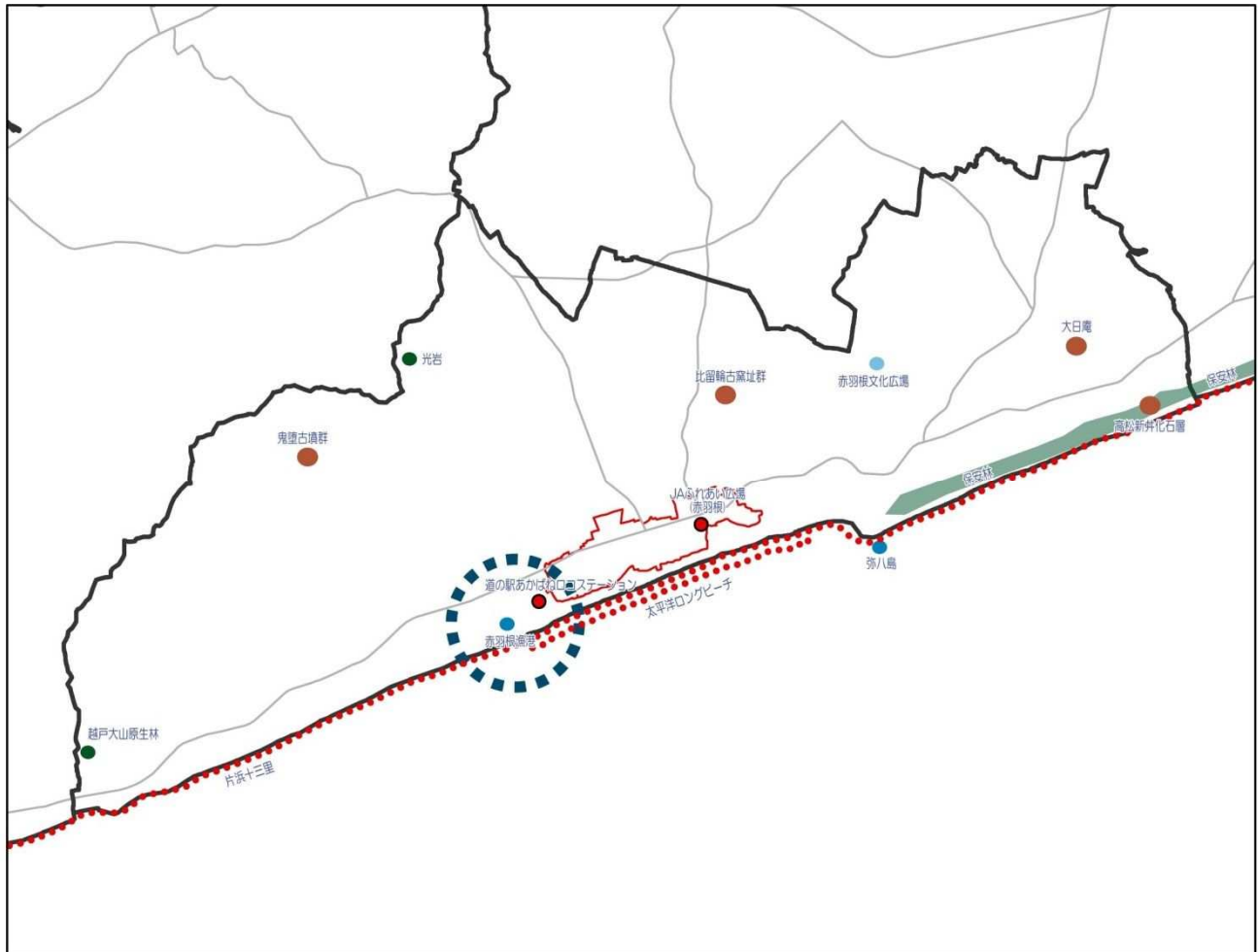


図 85 観光資源等の地域資源の分布状況図



---

## 2) 赤羽根地域の地域づくりの目標

### ◆太平洋ロングビーチ周辺における観光・交流と一体的なまちづくり

赤羽根地域には、本市を代表する観光・交流資源である太平洋ロングビーチ、道の駅あかばねロコステーションなどの地域資源が多くあります。

これらの地域資源を活かし、観光・交流と一体的なまちづくりを進めることで、地域の活性化を目指します。

### ◆サーファー等の移住による地域の活性化

赤羽根地域には、日本を代表するサーフィンの聖地、太平洋ロングビーチがあり、全国から数多くのサーファーが訪れます。居住環境の整備を行うことで、サーファー等の移住を促進し、地域の活性化を図ります。

### ◆赤羽根市街地の生活拠点機能の確保と地域コミュニティの維持

赤羽根市街地は、地域の生活を支える拠点としての機能の確保を図ります。

集落については、既存コミュニティの維持や安心・安全で活力のある暮らしの形成を目指します。

---

### 3) 地域の将来構造

#### ○市街地拠点（赤羽根市街地）

赤羽根市街地は、サーフィンの聖地である太平洋ロングビーチや道の駅あかばねロコステーションなど固有の観光資源があるため、これら観光資源と連携した市街地形成を図ります。

#### ○観光・交流拠点

道の駅あかばねロコステーション、弥八島を含む、太平洋ロングビーチ周辺を観光・交流拠点と位置づけ、それぞれの特性を活かした整備を図ります。

#### ○コミュニティ拠点

赤羽根地域の3か所の市民館をコミュニティ拠点として位置づけ、それぞれの特色を活かした地域主体のまちづくりを計画的に推進します。

#### ○道路ネットワーク（軸）

本地域の骨格をなす道路ネットワーク（軸）は、全体構想において位置づけた都市間連携軸、市街地間連携軸に加え、赤羽根市街地と野田地区（田原地域）をつなぐ（県）赤羽根野田線を地域幹線道路として位置づけて機能の充実を図ります。

都市間連携軸・・・国道42号

市街地間連携軸・・・（仮）大草白谷線、（仮）国道259号バイパス

（主）田原高松線、（県）高松石神線、（県）赤羽根泉港線

地域幹線道路・・・（県）赤羽根野田線

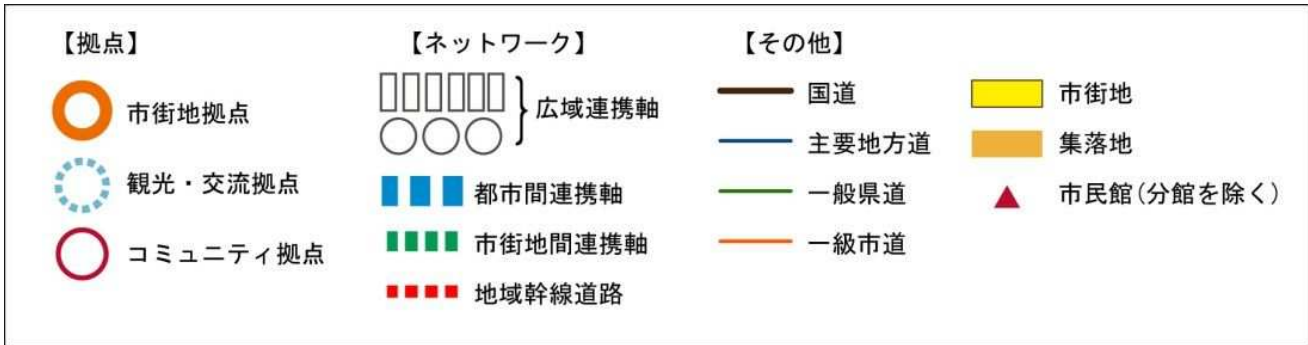
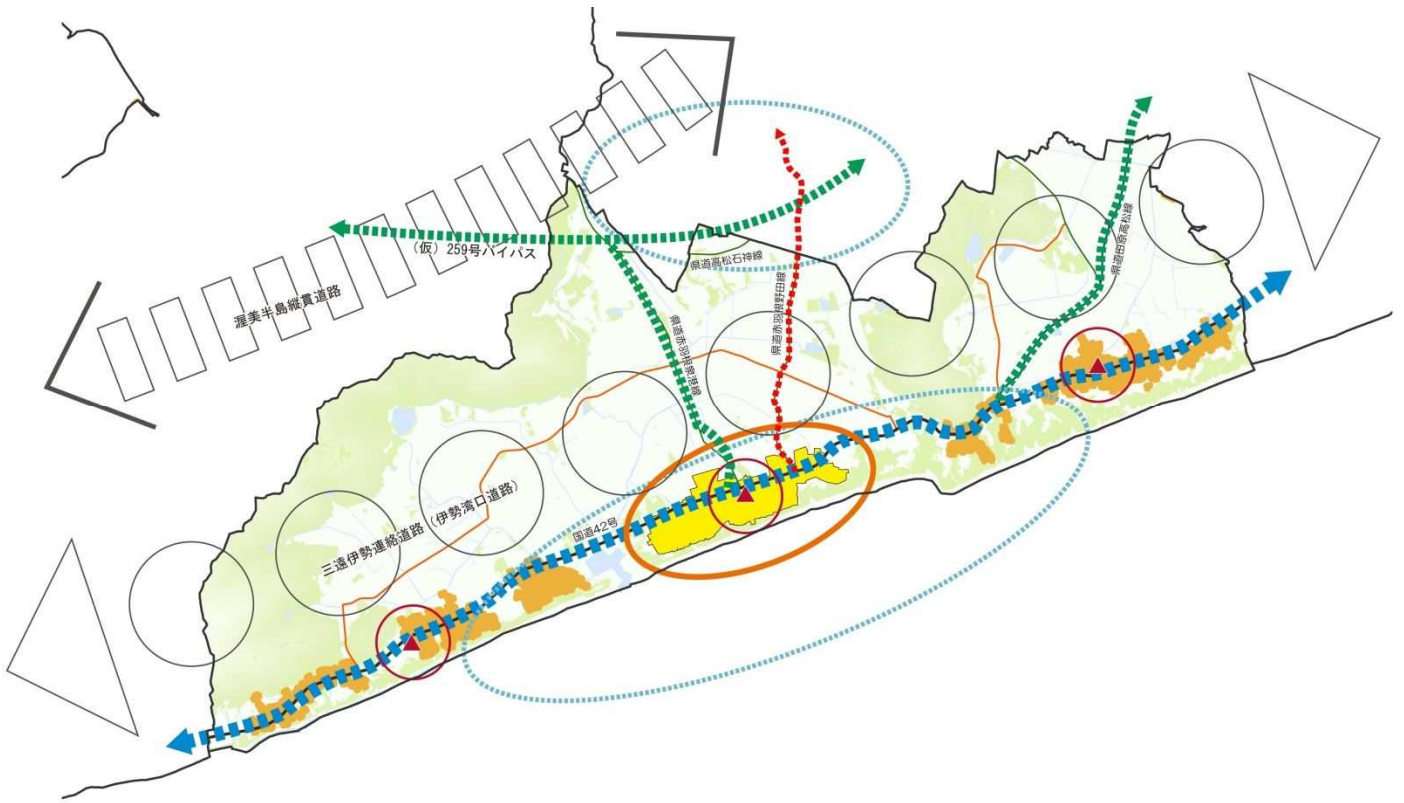


図 86 赤羽根地域の将来都市構造図

---

## 4) 地域のまちづくり方針

### ①土地利用

- ・赤羽根地域は、太平洋ロングビーチや道の駅あかばねロコステーションなど、観光・交流資源が多くあることから、観光・交流と一体的な土地利用を図ります。
- ・市街地内の低・未利用地の活用を図ります。
- ・土地区画整理事業を推進し、良好な住宅環境を確保します。
- ・「空き家・空き地バンク」制度の活用等による住宅・宅地の活用を図ります。
- ・サーファーの移住を促進するための土地利用を図ります。
- ・集落については、人口減少を抑制するため、集落内の世帯分離のための住宅地供給、田舎暮らしニーズへの対応など、地域の実情に応じた土地利用を図ります。

### ②道路

- ・(主) 田原高松線、(県)高松石神線、(県)赤羽根泉港線、(県)赤羽根野田線については、走行環境の向上を図ります。
- ・(仮) 国道 259 号バイパスの早期事業化・整備促進を図ります。
- ・(仮) 大草白谷線の新規路線を検討します。
- ・緊急車両の通行や災害時の安全な避難において支障をきたすおそれのある狭あい道路の解消を目指します。
- ・集落内の主要な道路は、一定以上の幅員を確保し、生活環境の改善を図ります。

### ③公共交通

- ・関係者が連携・協働して利用促進等に取り組み、運行を確保します。

### ④生活利便施設

- ・市街化区域内への医師の確保を図ります。
- ・観光・交流の活性化にともなう訪問者の利用による生活利便施設の存続や、観光交流施設の日常生活における利用など、相乗効果による日常生活の利便性の向上を図ります。
- ・田原市街地が比較的近いことから、田原市街地の生活利便施設までの道路及び公共交通によるネットワークの整備を図ります。
- ・赤羽根市民センター、赤羽根文化会館等の既存施設の有り方について検討します。
- ・集落住民の日常生活を支える生活利便施設については、持続可能な地域づくりを目指し、住民等が中心となって運営する「小さな拠点」づくりの考え方を取り入れた施設整備等を検討します。



---

## ⑤観光・交流

- ・太平洋ロングビーチについては、サーファーや釣り客が利用しやすい環境整備や利便施設の整備を図ります。
- ・道の駅あかばねロコステーションについては、観光案内機能の充実、トイレ環境の再整備、休憩所の改善等を順次実施します。また、市内の道の駅をネットワーク化することにより、道路利用者に休憩・情報等のサービスの提供や市内物産の紹介、販売等を行い、市内及び他地域との交流の促進を図ります。
- ・道の駅あかばねロコステーションと赤羽根漁港を活用した観光・交流施設としての整備を図ります。
- ・サーファーや釣り客の利用が多い弥八島周辺において、さらなる交流促進を図るための拠点整備を検討します。
- ・東京オリンピック候補種目であるサーフィン競技の誘致を目指します。
- ・半島全体を周遊できる渥美半島菜の花浪漫街道については、風景、花を活用した地域の活性化を図るだけでなく、サイン・標識なども含めた整備を図ります。
- ・農業体験施設の整備を検討します。
- ・必要に応じて観光開発計画を見直し、地域資源等を活用した土地利用を検討します。

## ⑥景観

- ・景観重点整備地区（候補地）の赤羽根地区については、防災性と生活利便性に配慮して、狭い路地の修景や、趣きのある古い建物の保全と建て替え時の建物のルール化による落ち着いた農村集落の形成を図ります。

## ⑦地震・津波防災

- ・赤羽根漁港については、津波防護施設等の整備促進を図ります。
- ・災害時における海岸地域からの円滑な避難のため、避難路の整備等を図ります。

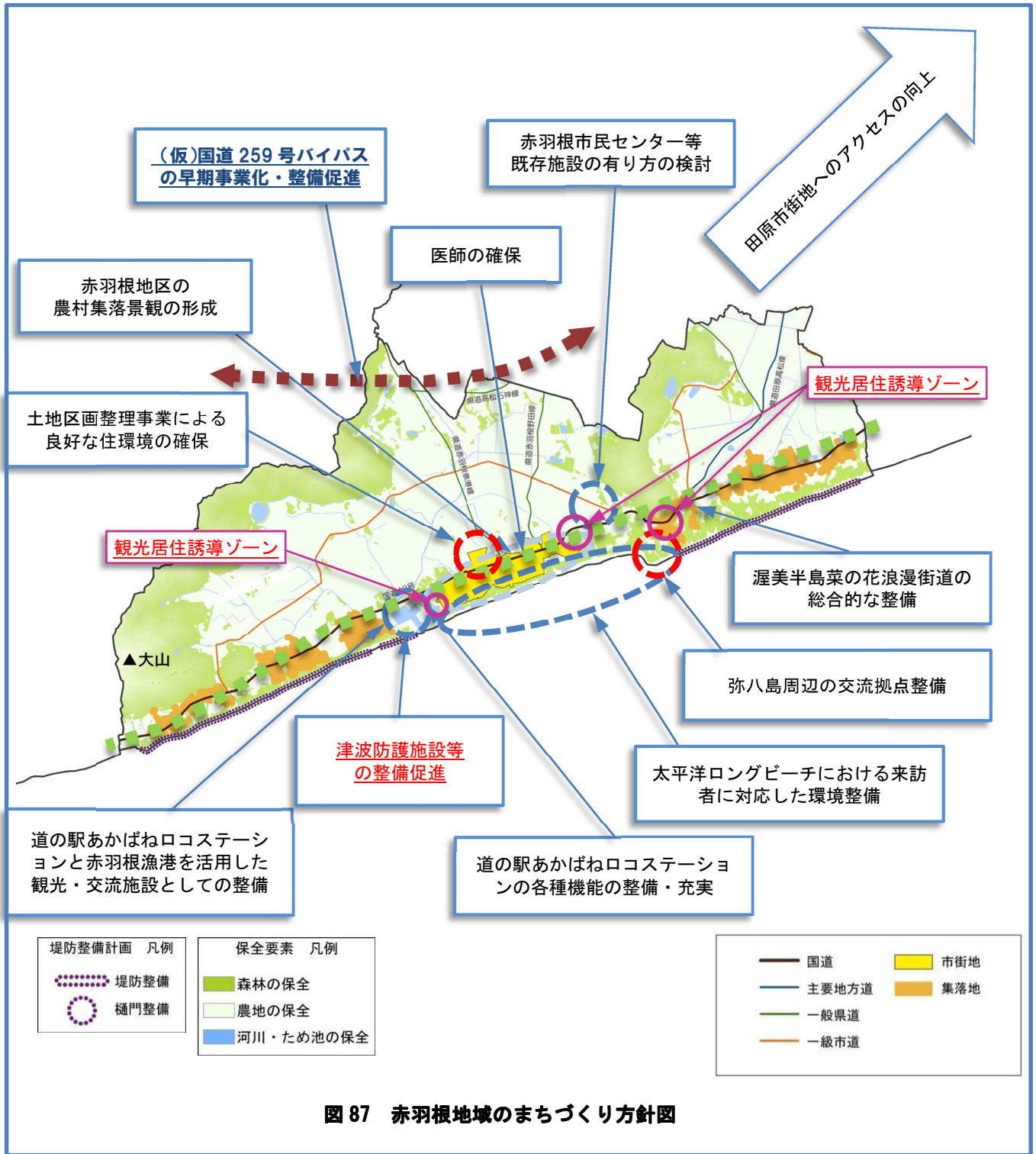


図 87 赤羽根地域のまちづくり方針図

## 5) 市街化区域及びその周辺の土地利用方針

### 【赤羽根市街地】

<b>①沿道賑わい機能 エリア</b>	近隣住民や観光・スポーツ交流エリア等への来訪者のための商業・サービス施設と住宅が調和した生活の賑わいが感じられるエリアとします。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・背後の住宅地と調和した身近な商業機能等の誘導を図ります。</li> <li>・国道 42 号の歩道等の修景により環境整備を図り、人と人との交流を促進します。</li> </ul>	
<b>②市街地居住促進 エリア</b>	低・未利用地や空き家を活用し、良好な住環境の形成を図るエリアとします。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・田原赤羽根地区土地区画整理事業を推進し、良好な住宅地等の整備を図ります。</li> <li>・低・未利用地や空き家を活用し、サーファー等の居住促進を図ります。</li> <li>・狭あい道路の解消については、地権者を含めて具体的な整備手法の検討を行い、住環境の整備を図ります。</li> <li>・旧表浜街道沿道の集落は往時をしのぶ路地等の風景が残っており、旧街道等の道路修景などにより歩行者の回遊性の向上を図ります。</li> </ul>	
<b>③観光・スポーツ交流 エリア</b>	多様な地域資源を活用し、観光・スポーツ交流を図るエリアとします。
<ul style="list-style-type: none"> <li>・太平洋ロングビーチ、道の駅あかばねロコステーション、弥八島、赤羽根漁港、ウミガメの産卵、サーフィン等多様な資源を活用し、観光・交流の機能強化を図ります。</li> </ul>	

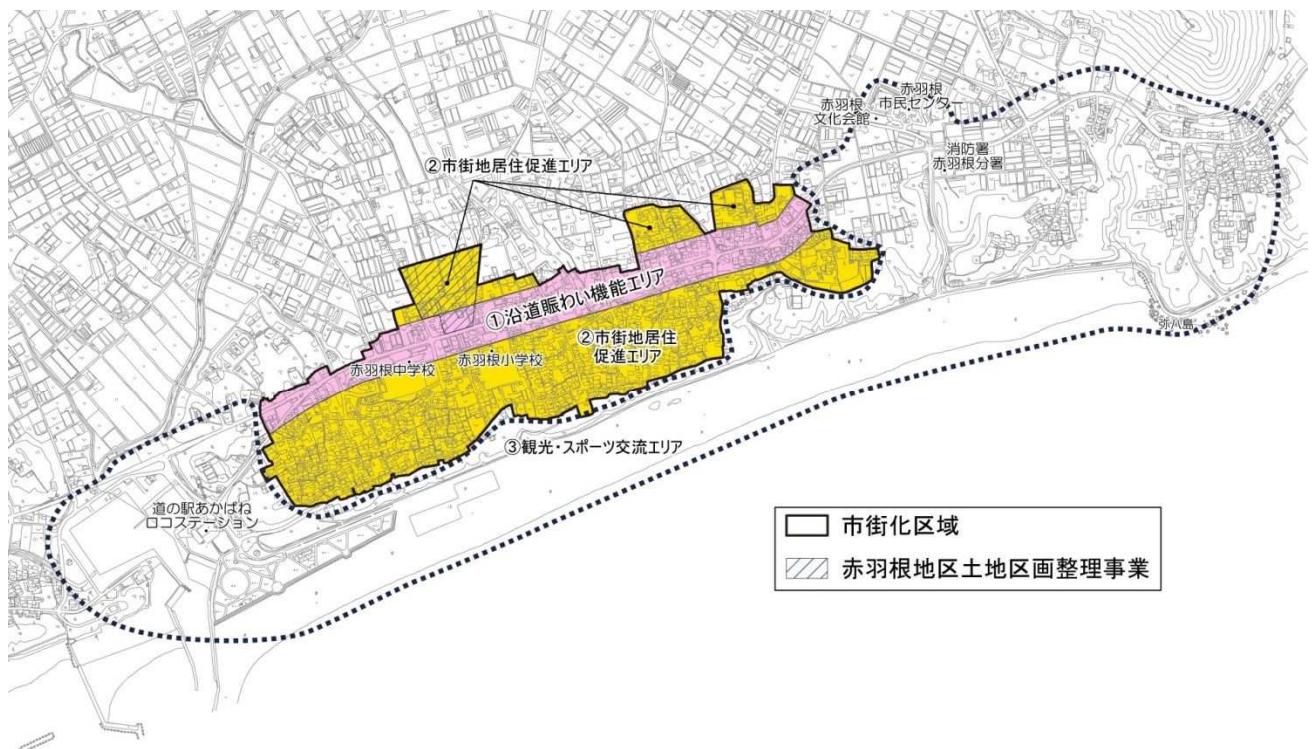


図 88 地域別土地利用のエリア区分図（赤羽根市街地及びその周辺）